

聖書箇所:詩篇63篇1~11節
「神の『恵み』を思い起こそう」

【1】 私はあなたを切に求めます

- ・「ダビデの賛歌。ダビデがユダの荒野にいたときに。」(詩篇 63 篇表題)
— 荒野にいた理由：追手から逃れるため
- ・ 荒野：草も水もほとんどない乾いた地
= 死と隣り合わせの場所
- ・ 切に求める(シヤル)
= 「朝早く探す、熱心に求める¹」
- ・ 荒野のダビデ
「何よりも優先しあなた(神)を切に求めます」と告白

【2】 神の力、栄光、恵みを思い起こす

- ・ ダビデが心を向けたもの
— 神の「力」、「栄光」、「恵み」
 - ① 神の「力」を経験したダビデ(I サムエル 17:47)
 - ② 神の「栄光」を喜びたたえたダビデ(II サムエル 6:14)
 - ③ 神の「恵み」にすぎたダビデ(詩篇 51:1)
- ・ 神の恵みを思い起こすとき
— 乾いた唇に神への喜びの賛美があふれ(詩篇 63:3-4)
— 最高の食事を味わった満足を得て(63:5)
— 神の確かな守りのもとで安らぐことができる(63:6-8)

【3】 神にあって喜び、誇る

- ・ ダビデの確信
— 正しい裁きが行われる(詩篇 63:9-10)
— 神に信頼する者は、やがて喜び、誇る者とされる(63:11)

▶ 荒野は私たちに渴きを覚えさせます。しかし神の恵みは、渴いたたましいを満たします。

「行けども行けども ただ砂原、道なきところを ひとり辿る。
ささやく如くに み声きこゆ、
『疲れしわが友、われにきたれ。』」
(讚美歌 21 437 番)



¹BDB, s.v. “שָׁחַר,” 1007.